

「電車に乗っ(て)」→ 鉄道から飛行機、そして車へ

我が故郷は新潟。

一口に新潟といっても、新潟県は日本海に沿って細長い。田舎はその新潟県の最北にある。今の我が家から田舎まで、道路で測ると約700kmあるが、そのうち300kmは新潟県といえば、その長さがおわかりいただけるだろうか。

我が家の子どもが小さい頃は、家族旅行といえば帰省だった。帰省の途中寄り道して1泊したり、田舎を起点に日帰り足を延ばしたり。とにかく家族5人での帰省は、我が家にとっては一大イベント。子供はじっとしているのが苦手。それだけに長距離移動には気を使った。

そこで、たいへんお世話になったのがブルートレイン。大阪―新潟間を結ぶ寝台特急「つるぎ」、大阪―青森間を結ぶ寝台特急「日本海」、そして大阪―新潟間を客車と寝台車を連結して運行する急行「きたぐに」。

子どもにとっては、かなり遅い時間帯の出発ではあるが、リュックを背負っての旅とあって、列車に乗り込むまではしゃんとしている。列車に乗り、寝台に横になるとじきに寝入り、夜中にぐずることもない。親にとっては、本当に助かった。親の方は、最初は寝台車に慣れず、列車のきしむ音、レールの継ぎ目を拾う音、揺れなどが気になってなかなか寝付くことができなかった。次第にそれらも気にならないようになっていったが、これも旅の一つのコツなのか。

それと、ブルートレインのもう一つのメリットは、眠っている間に移動するので、昼の時間をフルに活用できること。そんなこんなで、よく寝台列車を利用した。

そのブルートレインも、時代の変化とともに消えて行ってしまった。1982年の上越新幹線の開業に始まり、2015年の北陸新幹線の金沢までの延伸により、在来線は完全に分断され、日本海ルートでの長距離移動は実質できなくなってしまった。

子どもの成長とともに、家族全員での帰省も減っていったが、その交通手段は鉄道から飛行機へと移っていった。

鉄道では、東海道～上越と新幹線を乗り継いで行くにしても、総時間が8時間近くかかってしまう。ずっと座ったままでは、大人でもかなわない。一方、飛行機の場合、待ち時間がかなり生じるので、極端に時間短縮できるわけではないが、それでも2時間近く短くて済む。しかも飛行機に乗っている時間は1時間強ということで、疲労度はまったく異なる。

それと近年は、旅とは言いがたい、急用での帰省が多くなっていた。選択肢は飛行機とならざるをえなかった。

振り返ると、これまでは仕事優先で、家族サービスはおろそかになりがちだった。旅をしたいと言いながら、ほとんど日帰りの範囲で済ませてきた。

これからは、罪滅ぼしではないが、夫婦での旅行をできるだけ増やしていきたい。時間にとらわれず、のんびりした旅を楽しみたいと思っている。そうなると、交通手段は車が便利。幸い、車の運転は苦にならない。もう高齢者に数えられるようになったのでムリはしないが、安全運転であちこちに足を延ばしたいと思っている。



日本海に沈む夕日 (列車の車窓から)

(関住協世話人 木村智)

❁ 次回のタイトルは、「へ」から始まることばです。